

経済社会理事会



アンリ・マチス(フランス)による**希望のともしび**。黄、青、黒の紙で作られ、黒鉛に刻まれたこの芸術作品は、マチス自身がユニセフのグリーティング・カード用に寄贈したものです。これらのグリーティング・カードはユニセフが販売し、売上金は援助を必要としている子供たちのために使われます。

経済社会理事会は、経済・社会の領域における国連活動を計画し、その優先度を定める重要な機関です。理事会はすべての地域を代表する54ヵ国から構成されます。経済社会理事会は、開発途上国の経済成長を促進し、人権を支援し、かつ、貧困や低開発と闘うための世界的な協力を進める活動を勧告し、指示を与えます。

特定の必要に応えるため、総会は国連食糧農業機関(FAO)、世界保健機関(WHO)、国連教育科学文化機関(UNESCO - ユネスコ)などの専門機関や各種の計画や基金、たとえば国連開発計画(UNDP)、国連児童基金(UNICEF - ユニセフ)、国連難民高等弁務官事務所(UHCHR)など、数多くの機関を設置しました。これら機関の活動は、経済社会理事会が調整します。

経済社会理事会議場は、スウェーデンのスベン・マルゲリウスが設計し、同国政府が国連に提供しました。議場の傍聴席はくすんだ色彩と特殊な天井処理を施されているため、劇的な効果が生まれています。通常であれば視界から隠される配管部分が、ここでは大胆にも露出され、黒、灰色、白の3色に彩られているため、機能的な付帯設備が装飾と一体化しています。対照的に、各国代表団の席は明るく、照明器具は釣り天井に隠されています。

